

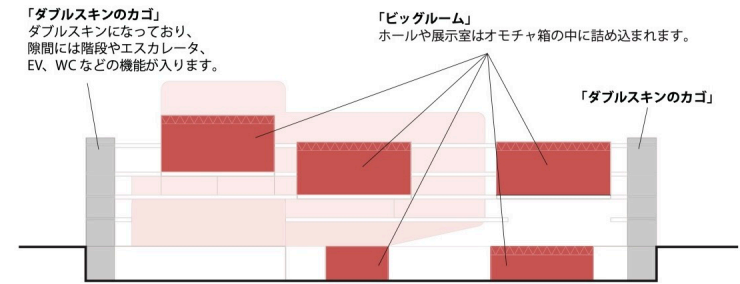
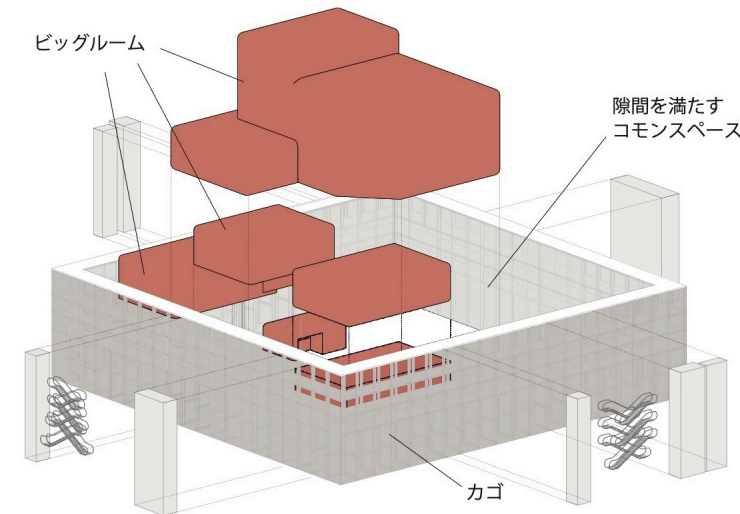
## 実施方針

大きなカゴの中にビッグルームを詰めこんだ、おもちゃ箱のような音楽ホールを計画します。

ビッグルームの中には大ホールや小ホール、震災の展示室などの機能が入ってます。ビッグルームを開閉可能な閉じた箱として計画することで、従来のホールや展示室の閉じた使い方と両立することができます。また、ビッグルームの隙間を満たしたスラブは各室のホワイエとして機能しながら個性的なロビーとしても使うことのできる、コモンスペースとして計画します。

コモンスペースは各ビッグルームを繋ぐ媒体となり、コミュニケーションを誘発します。コモンスペースで演目を行い、小ホールやリハーサル室をバックアップとして使い、表舞台と裏舞台を反転することで、館内全体を縦横無尽に移動しながらの演劇や、震災を考え直すイベントの会場として、実験的な新しいホールの使い方を市民皆様と共に模索していくことが可能です。コモンスペースは本来のホワイエの機能を超え、館内全体を音楽や演目で包み込む事を期待しています。

この地域は音楽や創作活動のちからで震災を乗り越えてきました。おもちゃ箱にアクティビティを詰め込んだような施設は市民の創作活動の場として、震災の被害を忍ぶメモリアル施設として、震災を負の記憶で終わらせず、ポジティブな形で継承していきます。



## ■意匠計画（4つの特色）

### 1. 四周にわたる機能的なカゴ

建物のまわりを囲うカゴを5m スパンのラーメン構造でつくります。カゴの隙間には動線と設備機能が入ります。

建物全体がダブルスキんに囲われることで、周囲の音環境をコントロールします。移動に必要な動線をコモンスペースの周りに展開することで、シンプルでわかりやすい空間構成とします。

### 2. 廊下のないコモンスペースに満ちた空間

廊下の代わりに、共有部分をコモンスペースとしてつくります。コモンスペースは一つの街で、その周りには様々な目的の場所があります。間仕切り壁の無い一体的な設えとし、すべての場がコモンスペースに面するように配置されます。

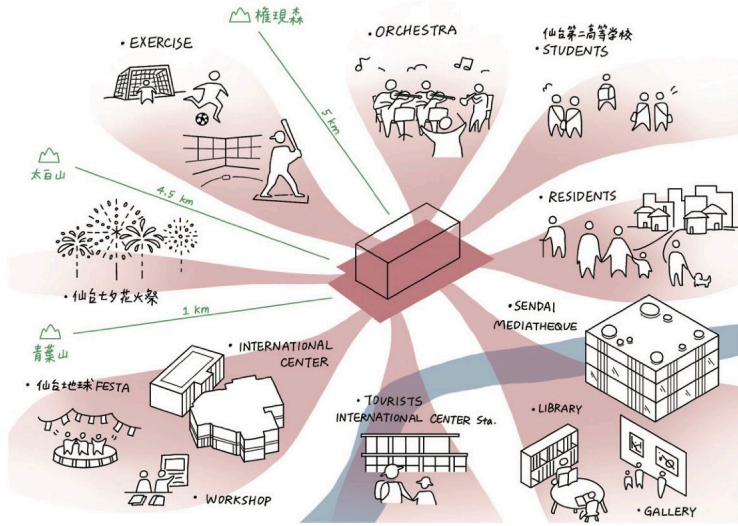
コモンスペースはホワイエの役割も果たします。各所室をダイレクトに行き来できるように計画することで、動線を短くまとめて連携しやすく、全ての人々が動きやすい環境を可能にします。

様々な活動が見え隠れしながら、緩やかにつながり、新たな学びとの出会いを促します。

### 3. にぎわい・交流をまちへと発展する広場

南側は隣地からセットバックして仙台の文化芸術の振興を推進する広場とします。国際センターから駅にかけての動線をそのまま活かしつつ、建物の中へ誘います。

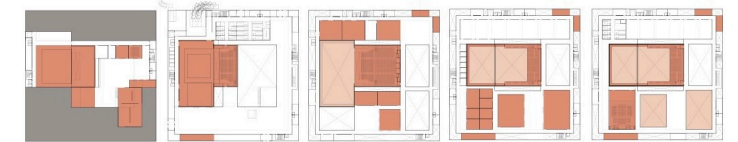
建物内の動線は東側の広瀬川方面へと展開し、周囲環境との連携を図ります。利便性・安全性を確保します。裏のない開かれた建ち方をします。



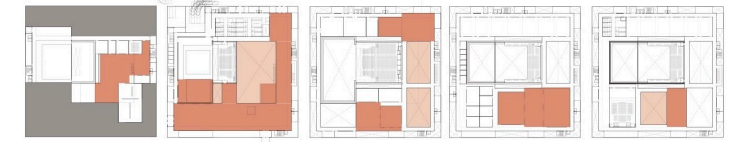
### 4. ステージとホワイエが入れ替わる空間

間仕切り壁の無い一体的な設えとしており、大きく囲うことも小さく囲うこともできる優しい空間です。コモンスペースは利用者全員に開かれています。ロビーやホワイエをステージのように使ってイベントを行うことで、この場所に訪れる色々な目的をもった利用者を自然と惹き付けます。ホワイエでイベントを行う際には役割が反転して、ホールや練習室がバックアップの機能を果たすこともあります。

#### ▼通常時



#### ▼ロビー／ホワイエでのイベント開催時



## ■ポテンシャルを生かす配置計画

この地に蓄積された杜の都の魅力、恵まれた自然環境と新しい複合施設によってこの場所にしかない魅力的な環境を創り出します。

建物は敷地中央に配置し、地上階を4層に抑えて1層を地下へ埋めることで近隣への日影の影響を抑えつつ、青葉台エリア特有の長閑な景観を保持します。北側に駐車スペースを設けることで、南側の歩行者空間と分離した安全な動線を実現します。

## ■市民にやさしい環境計画

### ○音

建物を覆うカゴ全体が防音壁の役割を果たし、敷地外への音漏れを最小限に抑えます。優れた音環境は最も大切な要素の一つです。残響をコントロールしながら心理的に必要なバックグラウンドノイズをコントロールする空間設計とします。コモンスペースは全てひとつにつながっており互いの音が聞こえますが、天井には吸音ボードを貼ることで、適度なバックグラウンドノイズを再現します。

### ○気温

仙台は1年を通じて寒暖差の大きい気候にあります。主要空間に対してはカゴがバッファとなり、パッシブな採光換気と合わせて快適な空間と省エネを共に実現することが可能です。夏には日差しを遮り、冬には奥まで暖かい陽を届けるように可能な限り空調機を使わずに日当たりを調節します。アトリウム状のコモンスペースは自然給気や重力換気により1年を通じて心地よい環境を実現します。建物には可能な限り高断熱を施し、極端な温度変化に対応するとともに快適な中間期は風を取り入れます。

### ○素材

目に見える場所、手に触れる場所を重点的に木質化し、親しみやすく居心地の良い空間に設えます。木は人に愛される傾向があります。鉄骨造、鉄筋コンクリート造にせよ、最終的に人が触れる部分である床や手すりは木造になります。

## ■市民の安全を守る災害対策

建物のまわり囲うカゴには、エレベーターや避難階段などの動線機能が詰まっています。段差が無くフラットで、バリアフリーに配慮した動線です。各階のコモンスペースは四周のカゴに開かれており、行き止まりのない安全な避難動線です。最短のルートで迅速な避難が可能です。災害時には、大ホールを第一次受入施設として利用します。状況に応じて上階の小ホールも利用し、まちなかの受入数が多い一時避難所として、電力や通信、給排水は多重化運用が可能な施設計画とします。

## ■コスト削減の工夫

カゴによる日射取得のコントロールとの掛け算で、快適かつ省エネにも配慮した空調システムとして、ライフサイクルコストの削減にも配慮します。経済スパンによるシンプルな構造で標準的な鋼材・仕口での施工を可能にしイニシャルコスト及び維持管理コストを抑えます。

## ■大規模改修を想定した構造計画

移動に必要な避難動線やトイレなどの諸機能は四周のカゴにおさめられています。カゴの中にはコアをつくらないため、様々な活動との兼用、改修後の再利用にもフレキシブルに対応可能です。

ダブルスキン構造となっているため、外皮の操作によって省エネ対策も容易です。

## ■実施体制

意匠事務所統括の下、複合施設の経験が豊富な専門家たち（構造、積算、電気、機械、ランドスケープ、照明、音響）で設計チームをつくります。フロントローディングにより、基本設計初期からコスト管理を徹底します。プロポーザル案をもとに利用者、管理者、市民の皆様から意見を汲み取ります。CGや動画、模型等の資料を提示して、プロセスを視覚的に共有しながら設計を進めます。

## ■面積表

	ホールエリア	文化芸術エリア	災害支援エリア	広場エリア	運営エリア	その他	階別延床面積
4F	1695㎡				1051㎡	2979㎡	5725㎡
3F	532㎡	2187㎡			1386㎡	3124㎡	7229㎡
2F	2127㎡	1659㎡		210㎡	50㎡	2352㎡	6398㎡
1F	3439㎡			2056㎡	47㎡	2988㎡	8530㎡
B1F	1442㎡		1279㎡	441㎡	22㎡	844㎡	4028㎡
エリア別延床面積	9235㎡	3846㎡	1279㎡	2707㎡	2556㎡	12287㎡	31910㎡

## ■工程表

設計の初期段階で徹底した周辺調査を行います。比較資料や模型、CGを活用し三次元による視覚的に分かりやすい資料を作成し、関係者の方々に丁寧に説明することで、円滑な合意形成を図ります。既存施設の利用状況や周辺状況の徹底した調査をし、関係者と知識を共有します。重要課題を整理したロードマップを作成し、着実に業務を推進できるよう、わかりやすく、丁寧な打合せを行って工期をコントロールします。

